

第 3 章

中学部の研究

中学部

I これまでの研究成果

- 1 授業につながる個別の指導計画
 - 1-1 実態把握からの目標設定
 - 1-2 授業の目標・支援の設定
- 2 個別の指導計画につながる授業の評価
 - 2-1 授業の評価
 - 2-2 評価のフィードバック

II 実践報告

実践報告4 「できた、わかった、こうしたい」を導く授業づくり

実践報告5 子どもが学びのエキスパートになるための授業づくり

III 研究のまとめ

- 1 研究アンケートと実践報告の結果
 - 1-1 「実態把握」についてのアンケート結果
 - 1-2 「目標設定」についてのアンケート結果
 - 1-3 「段階評価基準表」についてのアンケートと実践報告の結果
 - 1-4 「評価の方法とフィードバック」についてのアンケートと実践報告の結果
- 2 研究の成果
 - 2-1 実態把握・目標設定に関する成果
 - 2-2 授業目標と支援の設定に関する成果
 - 2-3 評価と評価のフィードバックに関する成果
- 3 今後の課題
 - 3-1 実態把握・目標設定の課題
 - 3-2 授業目標と支援の設定に関する課題
 - 3-3 評価と評価のフィードバックに関する課題

IV 資料

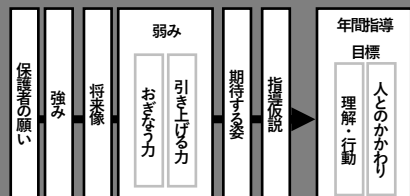
資料1 将来像・年間指導目標設定シート

資料2 学習と指導の振り返りシート

P

実態把握・目標設定

将来像・年間指導目標設定シート



担任

個別の指導計画
年間①
13の共通項目

将来像・
年間指導目標
設定シート

個別の
指導計画
年間②

A

フィードバック

担任

- ・将来像の見直し、修正
- ・年間①（実態）の修正
- ・後期の目標の作成

個別の指導計画
年間①

担任

- ・将来像の見直し、修正
- ・年間①（実態）の修正
- ・後期の目標の作成

個別の指導計画
年間①

担任・授業担当
学部職員

指導場面別
指導計画
前期

学協会
検討・共有

担任・授業担当

段階評価
基準表
(単元計画)

担任・授業担当
学部職員

学協会
検討・共有

D

授業実践

単元

授業

学習と指導の振り返りシート

段階評価
基準表
(学習評価)

指導の振り返り
シート
(指導評価)

授業

段階評価
基準表
(学習評価)

指導の振り返り
シート
(指導評価)

授業

段階評価
基準表
(学習評価)

指導の振り返り
シート
(指導評価)

...

C

評価

担任・授業担当

個別の指導計画
前期 評価

前期

単元ごとの
評価の積み重ね

学習と指導の
振り返りシート

学習と指導の
振り返りシート

...

後期

担任・授業担当

個別の指導計画
年間②

個別の指導計画
後期 評価

担任・保護者

個別面談
検討・共有

担任・授業担当
学部職員

学協会
検討・共有

担任・保護者

個別面談
検討・共有

担任・授業担当
学部職員

学協会
検討・共有

I これまでの研究成果

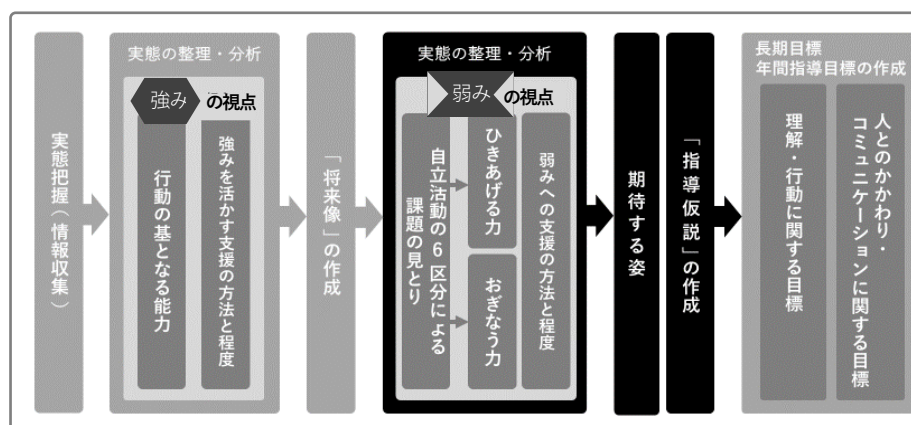
1 授業につながる個別の指導計画

1-1 実態把握から目標設定

中学部では生徒の「強み」に着目した「将来像」を基に目標設定を行ってきた。(図1)「強み」とは、生徒の学校生活における主体性を発揮している姿の基となっている長所・特徴となっている力で、「行動の基となる能力」とも言い換えられる。「強み」を伸ばしていくという考えから「将来像」、長期目標(中学部卒業時点で達成したい目標)・年間指導目標を設定することで、生徒一人一人がどの授業においても最大限に力を発揮できる授業づくりを目指している。

また、「将来像」から、長期目標・年間指導目標を設定するにあたり、生徒の「弱み」を見取っている。「弱み」とは、生徒が本当に困っていることや、つまずきの理由・要因となるものを自立活動の6区分に整理・分類して見取ったものである。障害特性からくる弱みを「おぎなう力」、障害特性からではなく、生徒の目標となりうる弱みを「ひきあげる力」としている。

これら、「将来像」と「弱み」を合わせて、中学部卒業時に「こうなってほしい」という「期待する姿」を設定し、その姿を実現するためにはどうしたらよいかという「指導仮説」を設定すること



で、より根拠に基づいた目標設定を行うことができるようになった。 図1 年間指導目標の設定

1-2 授業の目標・支援の設定

年間指導目標を単元の目標へと具体的な目標にするための視点として、「活動場面(いつ・だれと・どこで)」「活動内容(なにを)」「姿(どのように)」の「3つの観点」を設定した。この3つの観点を設定することで、「どのように具体的にするのか」という点で見られた教員間の差がなくなり、より教員間での検討・共有がしやすくなった。

表1 段階評価基準表(生活単元学習、総時数10時間)の記入例

単元の目標から授業の目標を設定する際には、「段階評価基準表」を作成する(表1)。段階評価基準表とは、現在の生徒の姿と、単元目標の

時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	製作① ○月×日		製作② ○月△日		製作③ ○月□日		製作④ ○月◎日	製作⑤ ○月▲日		製作⑥ ○月■日
単元目標①	教員と方法を確認しながら、一つ一つの工程に取り組むことができる。		手順書を確認しながら、一つ一つの工程に取り組むことができる。		手順書を確認しながら、複数の工程に取り組み、工程の終わりにごとに報告することができる。			手順書を確認しながら、複数の工程に繰り返し取り組むことができる。		
指導・支援	・見本や手本の提示（取り組み１） ・称賛（取り組み１）		・手順書の提示（取り組み１） ・称賛（取り組み１）		・タブレット端末での動画の提示（取り組み２） ・手順書の提示（取り組み２） ・称賛（取り組み２）					
教科の内容	・数学 ２段階 知識技能 A数と計算 目標数や製作数の数量関係が分かる（数学） ・職業家庭 ２段階 A職業生活 イ(ア)オ 作業課題が分かり、使用する道具や機械の扱い方を理解する ・職業家庭 ２段階 A職業生活 ア 働くことに対する関心を高める									
本時の姿										

間にある姿を段階として表にまとめたものである。この段階が1授業あたりの授業目標になっていく。併せて指導・支援を記入することで、生徒1人当たりの単元計画表とすることができ、1授業あたりの目標と照らして本時の姿を記入することで、生徒の学習評価を行えるようになっている。

2 個別の指導計画につながる授業の評価

2-1 授業の評価

授業の評価は、学習評価と指導評価を分けて行っている。そのために「学習と指導の振り返りシート (P73、74 参照)」を使用している。

この振り返りシートは、両面で1枚になっており、展開、段階評価基準表、指導の振り返りシートの3項目からできている。

展開には、次時の授業の計画として、活動の内容や対象生徒への支援方法、内容などを記入する。段階評価基準表で学習評価、指導の振り返りシートで指導評価を行い、次の授業の展開に反映することで授業改善を図っている。(図2)

指導評価として行う指導の振り返りシートは「学びのユニバーサルデザイン (Universal Design for Learning: UDL)」を評価の観点とした振り返りシートである。UDL とは、多様な学びを想定し、学習者が目的とやる気を持ち、知識を活用し、目的に向けて方略的に学べる「学びのエキスパート」となることを支える授業設計の枠組みである。UDL を観点として指導評価を行うことで、単に教員の視点からの指導・支援の評価に終始せず、「生徒の学習を主体的なものにする」という目的をもちながら指導・支援の評価を行うことができる。

学習評価と指導評価の繋がりを明確にするために、段階評価基準表の指導・支援の欄には、記入した指導・支援を UDL の視点と段階を用いて分類する。(表1、「指導・支援」の欄を参照)

2-2 評価のフィードバック

「学習と指導の振り返りシート」を毎時間の授業で使用することで、授業の評価が蓄積し、その積み重ねが単元の評価となる。(単元が変わると、授業の内容やそれに伴う指導・支援の方法も大きく異なるために、単元間の繋がりは本研究では扱っていない。) 単元の評価の積み重ねから、それぞれの評価の内容を比較・分析することで、個別の指導計画の評価を行っていく。

個別の指導計画の評価は、主に次年度の実態の部分に反映される。その実態は、目標設定を行う際の「強み」と「弱み」の分析に反映されるため、年間指導目標、授業の改善に活かされることとなる。

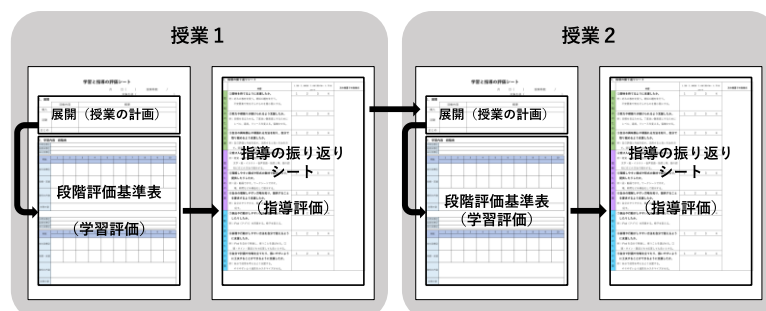


図2「学習と指導の振り返りシート」の活用方法